

教室の中の気になる子どもたち

～ 発達障害の特性の理解 ～

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」

(2002年2～3月実施)

知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すと担任教師が回答した児童生徒の割合

学習面か行動面で著しい困難を示す	6.3%
学習面で著しい困難を示す	4.5%
行動面で著しい困難を示す	2.9%
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	1.2%

発達障害のある子どもたち

学習面や行動面、対人関係において、生活上に様々な困難がみられる、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、アスペルガー症候群などの障害を発達障害とよんでいます。

LD (学習障害) の定義

学習障害とは、基本的には、
全般的な知的発達には遅れがないが、
聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する
能力のうち特定のものの習得と使用に
著しい困難を示す
様々な障害を指すものである。

LD (学習障害) の定義

学習障害は、その原因として、
中枢神経系に何らかの機能障害があると
推定されるが、
視覚障害、聴覚障害、知的障害、
情緒障害などの障害や、
環境的な要因が直接の原因となるものではない。

LDのある子ども

教科書をうまく読めない
漢字がなかなか覚えられない
文字をよく書き間違える



計算ミスが多い
図形を描くことが苦手
はさみ、のりづけの失敗が多い

LDのある子どもの大変さ

- ・わからない、できない、失敗が多い
- ・できない理由がわからない
- ・やる気がない、努力不足と見られる
- ・無理強いですらに自信と意欲を失う
- ・生活面全般にも支障がでてくる

頭ではわかっているのに、自分の思うように取り組んだり表現したりすることが難しい

ADHD (注意欠陥多動性障害) の定義

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び / 又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業に支障をきたすものをいう。

また、症状は7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

ADHDのある子ども

授業中によく立ち歩く
不注意なミスが多い
計画が苦手
やり遂げることが難しい



忘れ物やなくし物が多い
おしゃべりが多い
がまんが苦手
待つことが苦手

ADHDのある子どもの大変さ

- ・失敗経験を繰り返す
- ・友達とのトラブルが多い
- ・約束が守れず人から信頼されにくい
- ・注意や叱責を受けることが多い
- ・自己評価が低くなる

いろいろなことに興味があり、人一倍、好奇心が旺盛だが考えるよりも先に行動してしまう

高機能自閉症の定義

高機能自閉症とは、

3歳位までに現れ、

他人との社会的関係の形成の困難さ、

言葉の発達の遅れ、

興味や関心が狭く特定のものにこだわることを

特徴とする行動の障害である自閉症のうち

知的発達の遅れ伴わないもの



アスペルガー症候群の定義

アスペルガー症候群は、
知的発達の遅れを伴わず、かつ、
自閉症の特徴のうち
言葉の遅れを伴わないもの

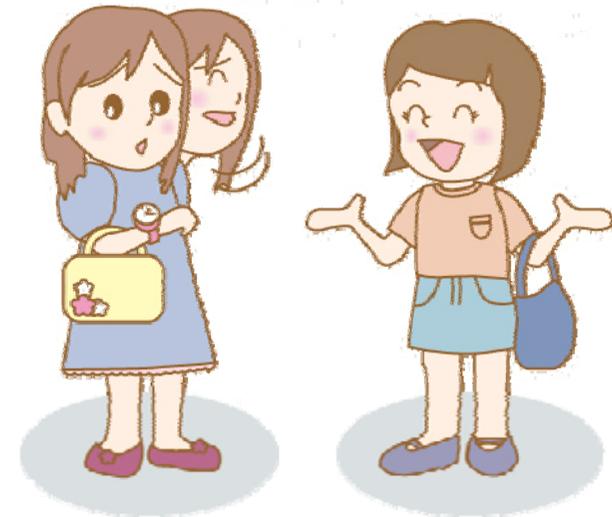
自閉症やアスペルガー障害のある子ども

急な予定変更は不安

興味関心が広がらない

会話が一方的でかみ合わない

人との距離感がつかめない



友達づきあいが苦手
切り替えが難しい
音や光に敏感

自閉症やアスペルガー障害のある 子どもの大変さ

- ・見通しがもてないことへの不安が強い
- ・暗黙の了解がわからない
- ・他人の感情や事の重大性に気づきにくい
- ・わがままで自分勝手と受け取られやすい
- ・からかいやいじめの対象になりやすい

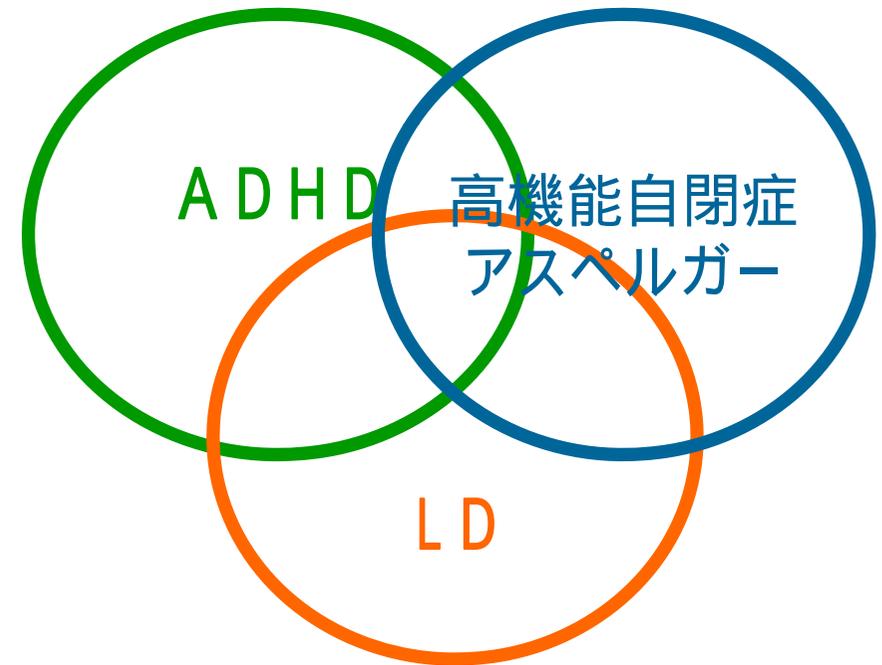
「だいたい」や「おおむね」などあいまいが苦手
だが、マニュアルには強く、非常に几帳面

一人一人の特性を把握する

・発達障害の特性は生涯にわたる特性

・重なる特性

・変わる診断



障害特性だけでなく

一人一人の特性を把握することも大切



LDの特性に応じた支援

- ・つまづきや困難さの把握
- ・得意なことの把握

発達障害のある子どもは、
適切な支援により状態は改善していきます。

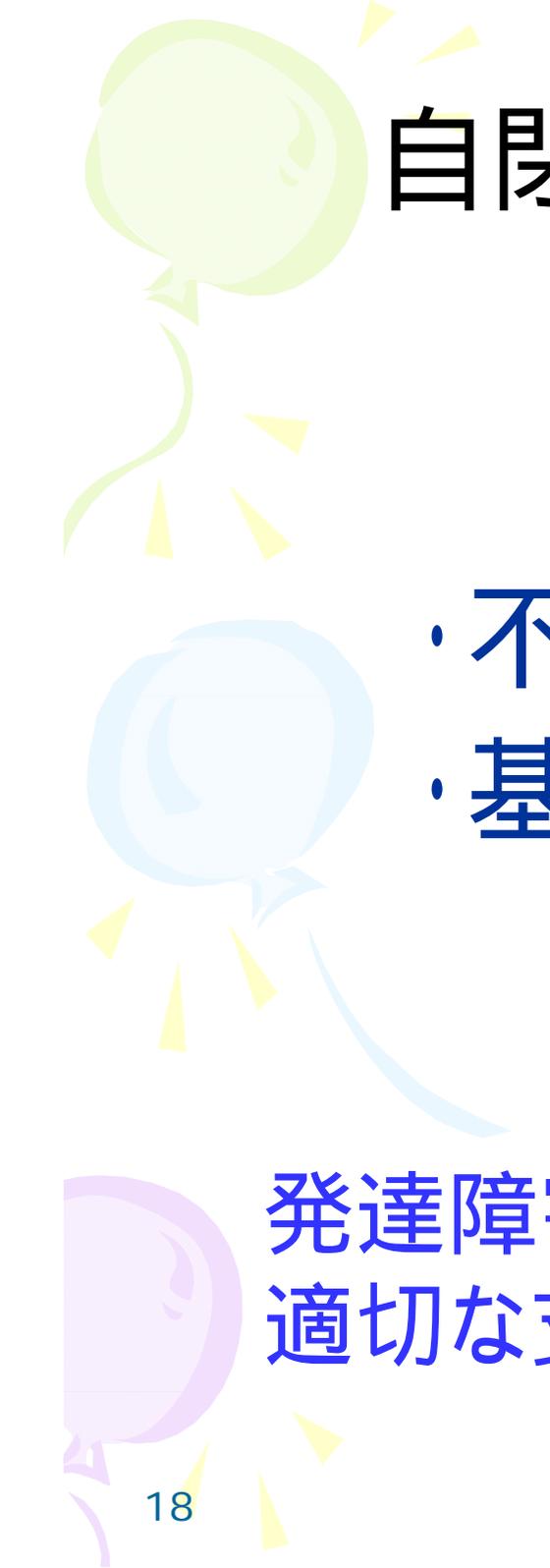


ADHDの特性に応じた支援

- 
- ・セルフコントロール力の向上
 - ・環境の調整
 - ・薬物によるサポート



発達障害のある子どもは、
適切な支援により状態は改善していきます。

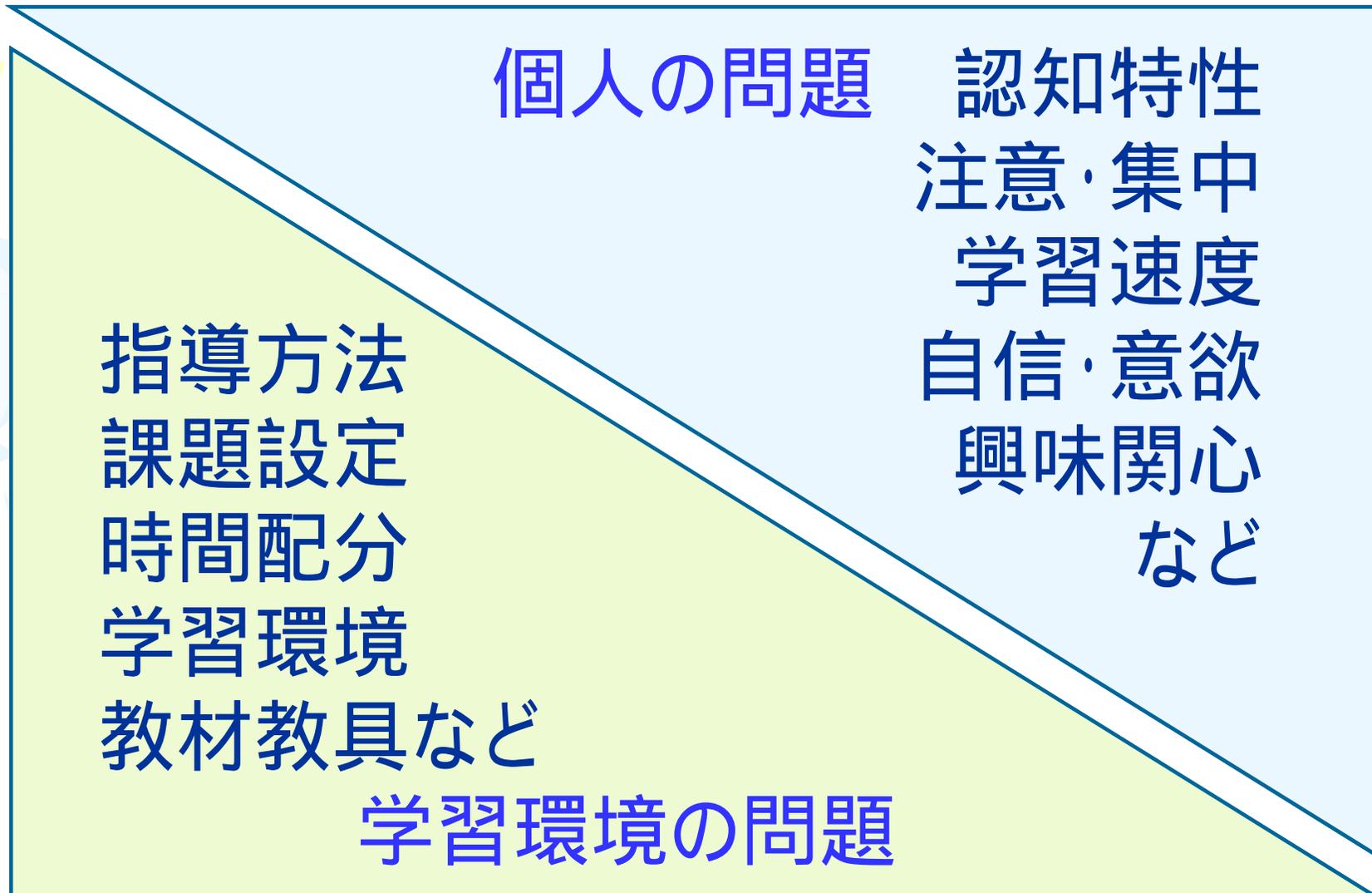


自閉症やアスペルガー症候群 の特性に応じた支援

- ・不安の軽減
- ・基本的な社会的スキルの習得

発達障害のある子どもは、
適切な支援により状態は改善していきます。

学習が難しい要因



学習面への支援

- ・簡潔に、はっきりとした指示
- ・先の見通しとゴール
- ・こまめにほめて最後まで
- ・見えるヒントや手がかり
- ・妨害となるものは取り除く
- ・できることから段階的に
- ・解決方法のバリエーション



適切でない行動の要因

- 
- ・やってみたい思いが強いから
 - ・つらい場面から逃げ出したいから
 - ・嫌なことをされていらいらしたから
 - ・もっと注目して欲しいから



必ず何か理由があるはずです

適切でない行動の要因



起きた行動だけ見るのではなく、
きっかけや行動の結果などの要因を考え
事前、事後も考慮して対応を検討します。

ポイントは、
禁止や制止ではなく、望ましい行動に意識を

行動面への支援

- ・怒りや不安、困惑等、気持ちの受け止め
- ・活動は一つずつ見通しを持たせて
- ・望ましい認められる行動に意識
- ・問題を起こさない経験の積み重ね
- ・あいまいさは禁物、対応ははっきりと
- ・して欲しくないことは対応に一貫性

支援のポイント

わからないからできない

- 1．支援はされる側で考える
- 2．支援の意味を考える
- 3．支援は徐々に減らしていく

子どもは集団で育つ

自信がない、意欲がない、自己評価が低い



授業で「わかる」「できる」経験

集団における自分の役割、望ましい人間関係

学びやすい環境
わかりやすい授業
支え合う学級

終わり

教室の中の気になる子どもたち

～ 発達障害の特性の理解 ～

担当：笹森 洋樹